

これが用途別のベストチョイスだ!

Photo : Nakamura Tohru

ホームページ作成ソフト 購入ガイド

ホームページ編集にかかる手間と時間は、できる限り軽く短くしたい。だが、凝った仕掛けも作ってみたい。この矛盾した要望に応えてくれるホームページ作成ソフトが増えている。今回は代表的な市販パッケージをピックアップして、機能と操作性の両面からそれぞれのソフトを検証した。

藪 暁彦

高機能ウェブページが これ1本で完成

現在、市販されているホームページ作成ソフトは、単なるページ編集にとどまらない多彩な機能を持つものばかりだ。完成したファイルをウェブサーバーにアップロードするFTP機能はもちろん、リンクチェックや自動修復、未使用ファイルの検索など、ウェブサイト全体を管理するサイト管理機能も当然のように備えている。

それだけでなく、画像などページ中に埋め込む素材を作る機能まで備えたソフトも少なくない。また、本体にそうした画像処理機能がないソフトには、画像編集ソフトをハンドルのケースも増えている。なかには、サウンドやBGM、ビデオを編集できるソフトまであるのだから驚きだ。

ホームページ作成ソフトを1本購入すれば、素材作りからページ編集、サイト管理まで、ウェブサイトの運営に必要な作業をすべてまかなえるのだ。

ホームページ作成ソフトの要の機能であるページ編集の高機能化も進んでいる。登場したばかりのころ、WWWの情報はテキストだけだった。やがてそこに静止画像が加わり、今では動画やサウンド、BGM付きのダイナミックなページも珍しくない。さらに、利用者がインタラクティブに操作できるサイトも増えている。多くのホームページ作成ソフトは、バージョンアップでこうした最新のウェブ技術をサポートし、ユーザーのニーズに応える機能が次々に加えられてきた。

とはいえ、操作が難しくしては、ユーザーに受け入れてもらえない。最新の技術を使ったページを、できる限り簡単な操作で編集できることが、ホームページ作成ソフトに与えられた大きな課題だ。ユーザーにとってうれしいことに、その課題をクリアするソフトは確実に増えている。



市販のホームページ作成ソフトをなぜ買うのか？

Microsoft FrontPage Netscape
WordやExpress、Composerとはここが違う！

「Microsoft Word」は、文書をHTML形式で保存できる。インターネットエクスプローラ(IE) 4.0以降をインストールすると「FrontPage Express」がインストールされ、ネットスケープコミュニケーターには「Composer」が付属する。これらのソフトがあればホームページは作れる。市販のホームページ作成ソフトを買う必要は、いったいどこにあるのだろう。

オーソドックスなページなら 付属ソフトでもOK

「FrontPage Express」はホームページ作成ソフト「FrontPage」の簡易版で「Composer」はネットスケープコミュニケーターの付属ソフトの1つだ。いずれも、ブラウザのインストール時に自動的にインストールされる(IE5は、インストール時に選択可)。

どちらのソフトも、テキストと静止画中心のページであれば、問題なく作成できる。画像挿入もリンクの設定も、ツールバーのボタンを押して、ダイアログが必要な項目を設定すればいい。もちろん、表も作れる。

「Word」では、普通に作成した文書を「Webページとして保存」すれば、自動的にHTMLファイルが生成される。HTMLをまったく意識せずにホームページを編集できるのは、ワープロソフトならではの。また、ホームページ用のテンプレートが8種類用意され、その中の「Webページウィザード」を利用すれば、フレームを使ったページも作成できる。

テキストと画像中心のページを作るなら、これら3つのソフトでも十分だ。

Word、Front Page Express、 Composerの限界

しかし、テキストと画像中心の単純なページはまだしも、ダイナミックなページやインタラクティブなページとなると、この3つのソフトはかなりの制約を受ける。Wordを除く2つのソフトはフレームに未対応で、Composerはフォームも作れない。

市販ソフトとのもっとも大きな違いは、これら3つのソフトが単一のページしか作れないことだ。通常、ウェブサイトは複数のページで構成される。ページ単位の編集しかできない3つのソフトでウェブサイトを構築するには、かなりの手間がかかることを覚悟したほうがいい。

また、画像などページ素材を作る機能もない。市販のホームページ作成ソフトを使えば、アイデアを簡単な操作でそれほど手間をかけずに形にすることができる。残念ながらWord、FrontPage ExpressとComposerは、そうした点で市販のソフトには遠く及ばない。

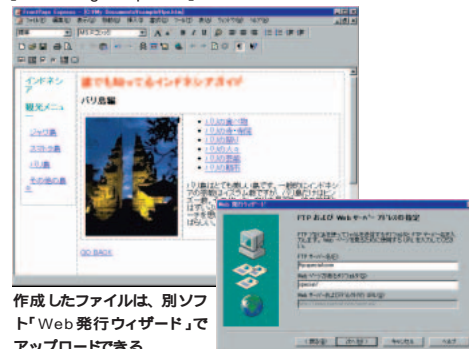
素材作りからページ編集、サイト構築、管理までの一連の作業を考えれば、市販ホームページ作成ソフトを利用するのが賢い選択だ。

[Microsoft Word 2000]



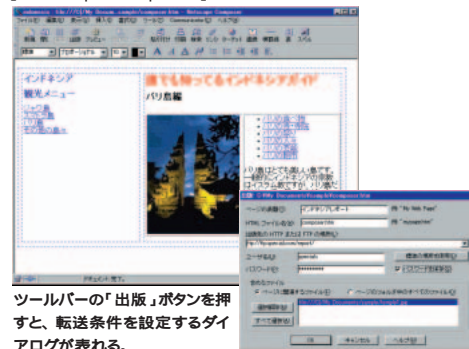
文字どおりワープロ感覚でホームページを作れ、テンプレートも付いている。

[FrontPage Express]



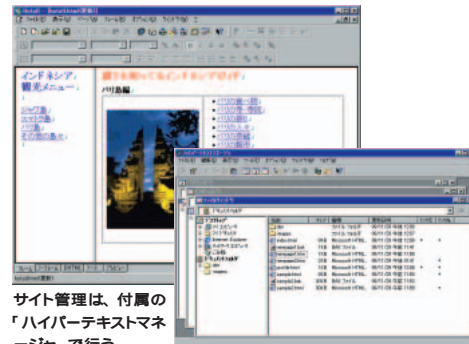
作成したファイルは、別ソフト「Web発行ウィザード」でアップロードできる。

[Netscape Composer]



ツールバーの「出版」ボタンを押すと、転送条件を設定するダイアログが表示される。

[i.ホテルパーソナル (市販ソフト)]



サイト管理は、付属の「ハイパーテキストマネージャ」で行う。

機能比較表

	Microsoft Word 2000	FrontPage Express	Netscape Composer	i.ホテルパーソナル
テンプレート			*1	
画像貼り付け				
ページのプロパティ	*2			
フレーム		x	x	
表作成				
フォーム			x	
ボタンなどの素材作成	*3	x	x	
HTMLソース編集			*4	
プレビュー	*5	x	*6	
FTP機能		*7		
サイト管理機能	x	x	x	

*1 ネットスケープ社のウェブサイトアクセスしてテンプレートをダウンロード。ウィザード形式での作成も可

*2 ページタイトルのみ設定可能

*3 図形描画機能を使った単純な図形のみ

*4 登録した外部ツールを使用

*5 標準ブラウザに設定されているブラウザでプレビュー

*6 ネットスケープナビゲーターでプレビュー

*7 「Web発行ウィザード」を使用



機能を見るか、操作性を見るか ホームページ作成ソフトの選び方

ホームページ作成ソフトを選ぶ際、まず気になるのが「機能」だろう。そこで選択のポイントとなる機能をピックアップして、各ソフトを比較した。が、単に多機能ならいいというものでもない。「操作性」も重要なポイントだ。これらの要素を比較検討し、自分に合ったソフトを選びたい。

1 最新機能への対応

ホームページ作成ソフトが対応していれば、最新技術を使ったホームページを作るのも簡単だ。ただし、すべてのブラウザが最新技術に対応しているわけではない。むやみに使うのは禁物だ。

新しい技術の中でもっとも注目されているのはXMLだがこれをサポートしているブラウザは今のところインターネットエクスプローラ5しかない。ホームページ作成ソフトで対応しているのはDreamweaver3とGoLive 4.0だけだ。

CSSやDHTMLに対応し、JavaScriptを使ったロールオーバーボタンを作れるソフトは確実に増え、対応していないのは8本中、PageMill3.0だけだった。DHTMLはどれもあらかじめ本体に設定されている効果の中から選択する方式だが、Dreamweaver3、GoLive4.0とNetObjects FUSION 3.0は、自由度の高い設定ができる。

興味深いのが「モード対応ページの作成機能」。ホームページ・ビルダー2001とi.ホタルパーソナルがこれに対応している。

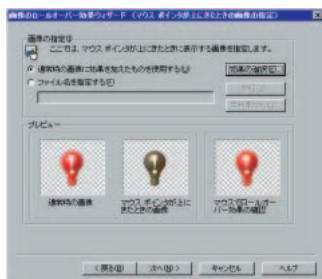
No.1 Macromedia Dreamweaver3

2 操作性

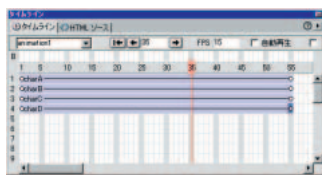
多くのホームページ作成ソフトは、ワープロソフトを使った経験があれば、すぐ操作のコツをつかめるはずだ。NetObjects FUSION3.0だけは勝手に違うが、こちらはドローツールやDTPソフトとよく似ている。

いずれの場合も、編集領域にテキストや画像などのページ構成要素を配置したあと、プロパティ(属性)ダイアログで詳細な設定をすることになる。どのソフトもユーザーインターフェイスがひと工夫されていて、操作性の点では申し分ない。

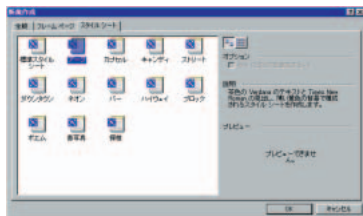
各ソフトには、操作手順にそれぞれ独自の作法のようなものがある。場合によっては、それが理解できるまで多少時間がかかるものもありそうだ。ホームページ・ビルダー2001はワ



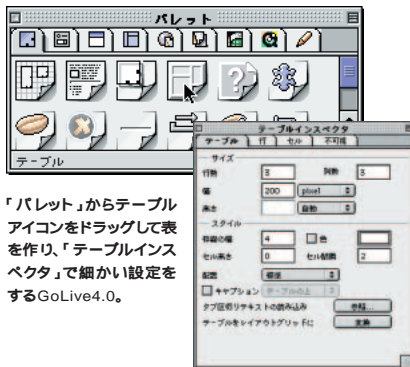
ホームページ・ビルダー2001は、1つの画像でロールオーバーボタンを作ることができる。



Dreamweaver3のタイムラインエディター。アニメーションを簡単に作ることができる。



FrontPage2000には、外部スタイルシートのテンプレートも用意されている。



「パレット」からテーブルアイコンをドラッグして表を作り、「テーブルインスペクタ」で細かい設定をするGoLive4.0。

ワープロソフトにきわめて近く、直感的に操作できる。操作のわかりやすさという点では、これが一番だ。

No.1 ホームページ・ビルダー2001

ホームページ作りのキーワード

[DHTML]

ダイナミックHTML。CSSとJavaScriptを利用して、動きのあるページを作る技術。ただし、バージョン4.0以降のネットスケープナビゲーター(NN)とインターネットエクスプローラ(IE)しか対応していない。

[XML]

eXtensible Markup Language。自由に拡張できるウェブページ記述言語。インターネット上でデータ交換するための汎用言語として注目されている。IE5のみ対応。

[CSS]

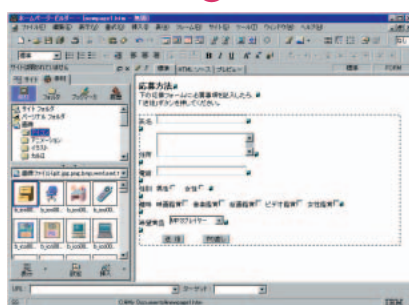
Cascading Style Sheet。ホームページをレイアウトするための技術で、フォントの種類、サイズ、色やマージンなどを自由に設定できる。NN4.0、IE3.0以降が対応。

[プラグイン]

ブラウザの機能を拡張する付加プログラム。これを利用することで、ブラウザの中でアニメーションや動画など動きのある素材を再生できるようになる。

[JavaScript]

ネットスケープ社が開発した、HTMLファイルの中に記述するプログラム言語。ブラウザのコントロールやインタラクティブなページ作りに使われる。



ホームページ・ビルダー2001では、フォームツールバーをクリックして入力ボックスやテキストボックスなどを配置すれば、入力フォームができあがる。



3 HTMLソースの編集

8本のソフトの中でまったくHTMLソースを編集できないものはないが、NetObjects FUSION3.0はページ全体の編集はできない、残り7本はページ単位で編集できるが、ソフトによってはコードを目で追いつながら編集箇所を探さなければならぬものがある。i.ホタルパーソナルとFrontPage2000の2本だ。反対に編集箇所を探しやすいのは、Dreamweaver 3、GoLive4.0とPageMill3.0の3本。レイアウト画面で選択した範囲が、そのままHTMLソース画面にも反映される。

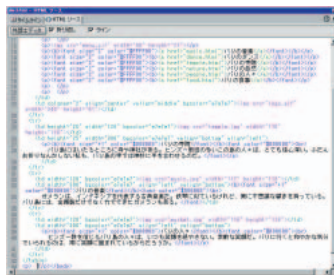
もっとも編集しやすいのはDreamweaver3だ。HTMLソースに行番号を付けられ、ウィンドウ右端で文字が折り返される。さらに便利なのが「クイックタグ機能」だ。レイアウトモードで編集したい画像やテキスト範囲を選択し、プロパティダイアログ右上のアイコンをクリックすると、その部分のHTMLソースが独立したウィンドウに表示されるのだ。

No.1 Macromedia Dreamweaver3

【見本画面】



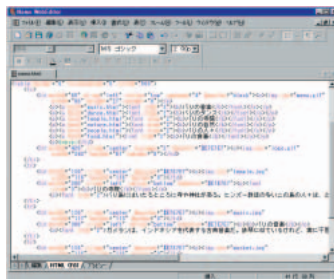
ウィンドウ左にメニュー、右にメインの情報が表示されるように表を使ってレイアウトしている。画面はDreamweaver 3。



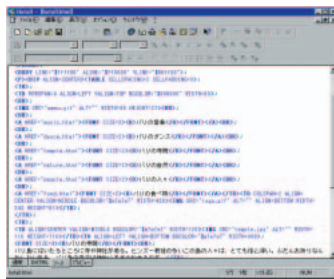
ウィンドウ右端で文字が折り返され、行番号も付けられるDreamweaver3。



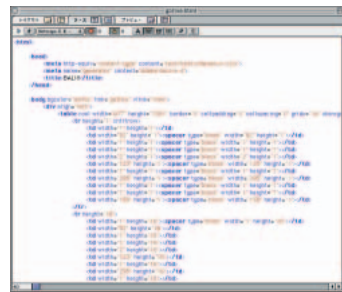
PageMill3.0は、「表示」メニューから「ソースモード」を選んでHTMLソースを表示する。



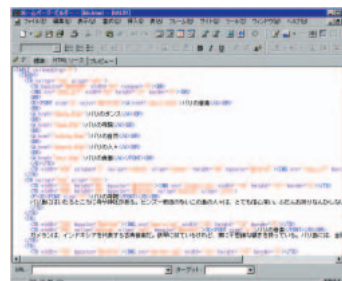
Namo Web エディターは、編集画面下のタブで表示モードを切り替える。



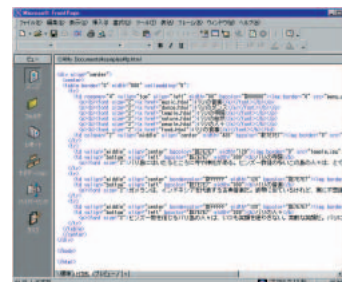
i.ホタルパーソナルのソース表示には、ヘッダー部分を除いてインデントが付けられない。



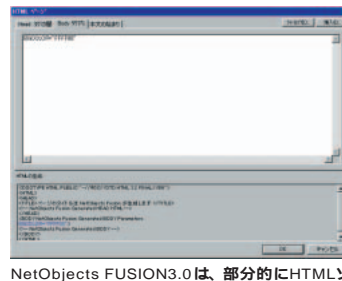
GoLive4.0は、通常のHTMLソース表示のほか、アウトライン表示もできる。



ホームページビルダー2001は、編集画面下のタブで表示モードを切り替える。



FrontPage2000は、編集画面下のタブで表示モードを切り替える。



NetObjects FUSION3.0は、部分的にHTMLソースを付け加えることしかできない。

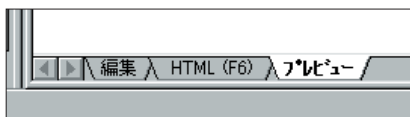
4 プレビュー

作成中のページは、ホームページ作成ソフト本体とブラウザでプレビューできる。本体のプレビュー機能が優れているのは、Mac版GoLive4.0だ。ブラウザで見たときにウィンドウズとマッキントッシュでは表示されるフォントの大きさが違う。マッキントッシュのほうが小さく表示されるのだ。Mac版GoLive4.0はその違いをシミュレーションできる。

No.1 Mac版 GoLive4.0



Mac版GoLive4.0は、マッキントッシュとウィンドウズのテキスト表示の違いもプレビューできる。



Namo Web エディターは、画面下のタブで表示モードを变える。



GoLive4.0で、ウィンドウズ版ネットスケープナビゲーター4のテキスト表示をシミュレーションできる。



5 ピクセル単位のレイアウト

ホームページをピクセル単位でレイアウトするには、テーブル(表)を使う方法と、CSSとDHTMLを使う2つの方法がある。表を使ったレイアウトは多くのブラウザで表示できるが、ファイルが長く複雑になり、HTMLソースの編集をしづらいのが欠点だ。CSSとDHTMLを使えばHTMLソースはシンプルになるがインターネットエクスプローラ3.0以降とネットスケープナビゲーター4.0以降のブラウザでしか表示できない。

ビジュアル編集モードで表を使ったレイアウトができるのは、GoLive4.0など少数に限られる。一方、PageMill3.0以外は、すべてのソフトがCSSとDHTMLを使ってピクセル単位のページレイアウトができる。便利なのがDreamweaver3で、CSSとDHTMLを使ってレイアウトしたページのHTMLソースを、表に変換する機能を持っている。

NetObjects FUSION3.0は、8本中もっともユニークだ。作成したページを独自のデータ形式で保存し、サーバーに「発行」(アップロード)するときHTMLファイルを生成する。



NetObjects FUSION3.0を使ったレイアウト例。

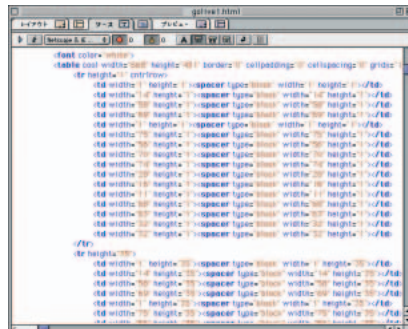


DHTML対応で生成されたHTMLソース。

そしてその際に、表を使うかCSSとDHTMLを使うかを選択できるようになっている。



GoLive4.0のレイアウトサンプル。



表を使っているため、HTMLソースは長くてわかりづらい。

No.1 NetObjects FUSION 3.0

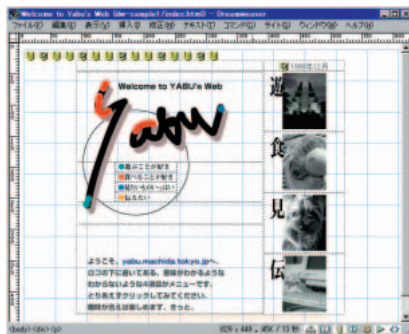
6 乗り換え対応

使っているソフトが持たない機能を使ったページをほかから読み込むと、未対応部分がきちんと表示されない。途中から別のソフトに乗り換えるときは、どんな機能に対応しているかをチェックしておこう。特に、CSSやDHTMLなど最新技術への対応が重要だ。

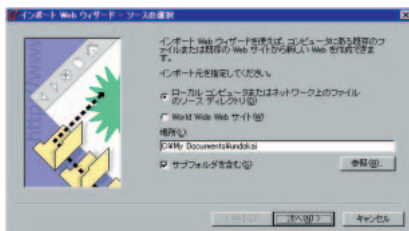
ほかのソフトで作ったページを読み込む手間も考えたほうがいい。1ページずつ読み込むのでは、時間ばかりかかって大変だ。サイトを丸ごと読み込む機能を備えていけば、その時間と手間を節約できる。PageMill3.0以外は、すべてこの機能を備えている。

もう1つ問題がある。作成済みのページは、ハードディスクに保存してあるはずだ。がソフトによっては、サーバー上のサイト情報しか読み込めないものもある。そのためにインターネットに接続するのはムダ。選ぶなら、ハードディスク中のサイトデータを丸ごと読み込めるソフトが便利でいい。それができるのは、FrontPage2000、NetObjects FUSION3.0とDreamweaver3の3本だ。なかでも、FrontPage2000の使い勝手はいい。

【乗り換え前】



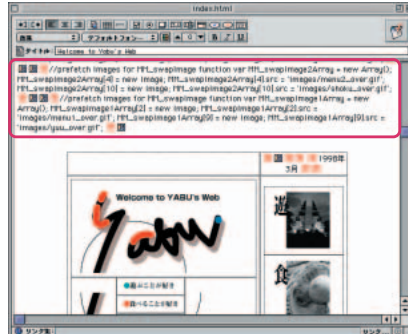
JavaScriptを使ったロールオーバーボタン入りのページ。Dreamweaver3で作ったものだ。



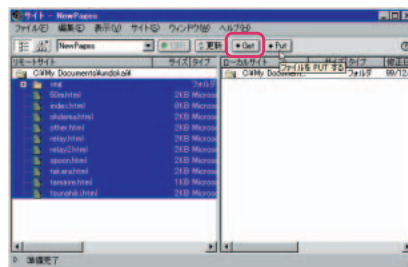
ダウンロードするサイトがサーバー上にあるが、ハードディスクにあるかを選択できるFrontPage2000。

No.1 FrontPage2000

【乗り換え後】



それをPageMill3.0で読み込むと、未対応の機能はアイコンで表示されてしまう。



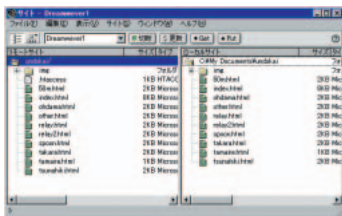
Dreamweaver3のサイトウィンドウ。左の「リモートサイト」(サーバーまたはハードディスク)からの「ローカルサイト」(ハードディスク)へ必要なファイルを「Get」すればいい。



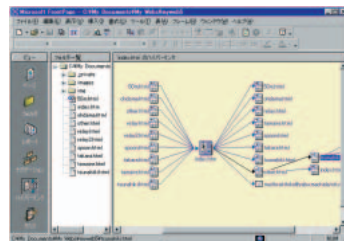
7 サイト管理機能

サイト内のページ数が増えるにつれて、ファイル管理に手間がかかるようになる。多くのホームページ作成ソフトは、こうした作業も自動的にやってくれる。

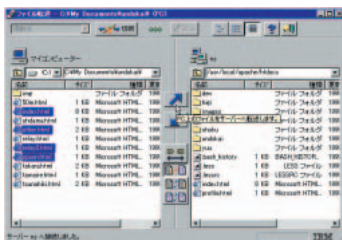
なかでも便利なのは、サイト内のさまざまな情報や状態を一覧表示してくれるFrontPage2000の「レポートビュー」とNetObjects FUSION3.0の「資源ビュー」。これらを使えば、サイトの管理が楽にできる。また、サーバーへファイルをアップロードするだけでなく、サーバーから必要なファイルを選んでダウンロードできるDreamweaver3とホームページ・ビルダー2001も使い勝手がいい。



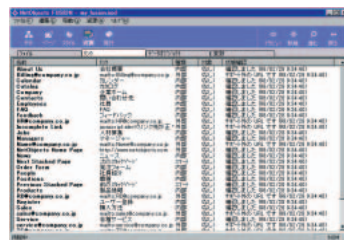
ウィンドウ左にサーバー、右にハードディスク内のファイルやフォルダーが一覧表示されるDreamweaver3のサイトウィンドウ。



サイト内のリンクがビジュアル表示されるFrontPage2000の「ハイパーリンクビュー」。



ウィンドウ左にハードディスク内の、右にサーバーのファイルとフォルダーが表示されるホームページ・ビルダー2001の「ファイル転送」プログラム。



サイト内のファイルだけでなく、リンクや変数などの状態が一覧表示されるNetObjects FUSION3.0の「資源ビュー」。

No.1 FrontPage2000

8 画像編集ツール

ホームページ作成ソフトは、徹底してページ編集とサイト管理に機能を絞込んだタイプと、素材作りにまで機能を広げるタイプの2つに大きく分かれる。画像編集ツールを別のパッケージで販売しているマクロメディアのDreamweaver3とアドビシステムズのGoLive4.0が前者の典型だ。

反対にホームページ・ビルダー2001やFrontPage2000、i.ホタルパーソナルは、ロゴやボタン、アニメーションGIFなどの画像素材を作れるソフトがバンドルされている。プロのウェブデザイナーならともかく、一般の個人ユーザー



ホームページ・ビルダー2001のロゴ作成機能を使えば、ウィザード形式で見栄えのよいロゴを簡単に作れる。



FrontPage2000に付属の「Image Composer」は、市販の画像編集ツールに劣らないほどの機能を備えている。

ウィザード形式でロゴを作るi.ホタルパーソナルのロゴファクトリー。

にとっては、ホームページ作成ソフトを1本買えば画像も作れるこうしたソフトはありがたい。

No.1 ホームページ・ビルダー2001

9 収録素材

画像やサウンドなど素材作りも楽しいものだ。ページ構成を一から考えるのもおもしろい。だが、そうした時間や手間はかけたくないとしたら、付属のページテンプレートや素材を利用するのがいい。

今回取り上げた8本は、用意されている数

に差はあるものの、どれもページテンプレートを備えている。画像などの素材が収録されているソフトも少なくないが、画像、サウンド、Java アプレットなど、種類の豊富さではホームページ・ビルダー2001が一番だ。

No.1 ホームページ・ビルダー2001



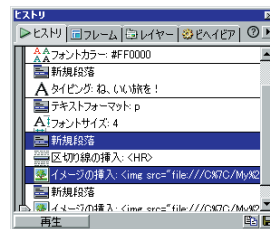
ホームページ・ビルダーの素材集。ウィンドウ左の「素材」タブから「素材」ボタンをクリックすると、収録されている画像素材が一覧表示される。

10 その他の機能

目の不自由な人にもアクセスしやすいページを作るための「アクセシビリティ・チェック」機能や音声読み上げページ作成機能を持つホームページ・ビルダー2001、BGMを作れる「メロディーファクトリー」が付属するi.ホタルパーソナルなど、ユニークな独自機能を取り入れたソフトも多い。

これらのソフトも興味深いが、とりわけ注目したいのがDreamweaver3の履歴機能。それまでの作業ステップを記録するこの機能を利用すれば、ページ編集の効率は格段にアップ。同様の作業を繰り返すページ編集において、この機能は大きな力を発揮する。

No.1 Macromedia Dreamweaver3



Dreamweaver3の「履歴パレット」に記録された作業ステップは、繰り返し再利用したり保存したりできる。



ホームページ作成ソフトラインアップ

ホームページ作成ソフトは千差万別だ。機能はもちろん、操作性にもソフトごとに個性がある。この個性と使う側の嗜好や目的が合えば、ページ作成やサイト管理に要する手間も時間も軽減される。ホームページを作る側にとって、どのソフトを選ぶかは重要な問題だ。

手軽な操作で素材・ページ作りからチェック、管理まで

ホームページ・ビルダー 2001

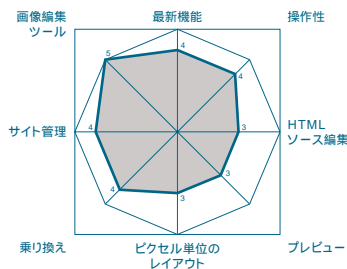


実売 11,000円

初心者向きだから機能もそこそこ。「ホームページ・ビルダー2001」に、そんな常識は通用しない。オーソドックスなページから、DHTMLやCSSを利用したダイナミックなページまで、アイデアを簡単な操作で形にできるのがこのソフトの魅力だ。専門的な知識はもちろん必要ない。

作ったページのチェック機能も万全だ。スペルチェック、半角カナ変換やHTML構文チェック機能を使えば、作業中に気付かなかったミスを見つけ出して修正できる。最後にリン

クをチェックし、サーバーにアップロードする。ユニークなのが、アクセシビリティ・チェック機能だ。デザインを優先するあまり、画面が見づらくなってしまふことがある。目の不自由な人にとっては特に辛い。この機能を利用すれば、そうした問題を取り除ける。見る側にとっても優しいソフトと言えそうだ。



入力した文字から簡単にロゴを作れる「ロゴ作成ウィザード」も、文字に縁取りをしたり、影やぼかしを入れたりすることもできる。

メーカー : 日本アイ・ビー・エム(株)
標準価格 : 14,800円
問い合わせ : 0120-04-1992
Jump www.ibm.co.jp/software/internet/hpb/



画像やサウンドなどの素材作りもサポート

i.ホタルパーソナル



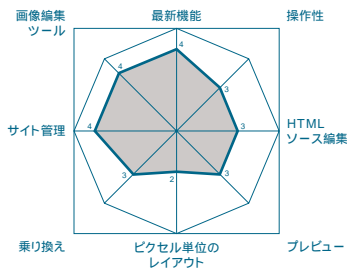
実売 7,500円

アイデアはある。ソフトも使いこなせるようになった。「だけど……」と多くの人が悩むのが、ページを飾る画像だろう。画像作成ツールが付属する「i.ホタルパーソナル」なら、そうした悩みも解決だ。

しかも、付属するロゴ作成ツールは1種類だけでなく、ロゴ作成用の「ロゴファクトリー」と、アニメーションGIF作成用の「アニメーションファクトリー」の2つのツールが付属する。さらに、本体には3Dのロゴを作れる「3Dサインボード」も内蔵されている。

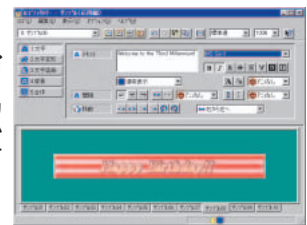
効果音やBGMが作れるのも、i.ホタルパー

ソナルの特徴だ。本体内蔵の録音機能で音声を録音し、付属のMIDI編集ツール「メロディファクトリー」でMIDI形式のBGMを作れる。なお、i.ホタルパーソナルはiモード対応のページを作れるが、この機能を持たない「i.ホタルパーソナル」(標準価格: 7,800円)も発売されている。



ウィザード形式でロゴを作成する「ロゴファクトリー」。文字を入力し、変形や装飾のしかた、背景などを指定するだけでいい。

メーカー : デービーソフト(株)
標準価格 : 9,800円
問い合わせ : 011-807-6700
Jump www.db-soft.co.jp

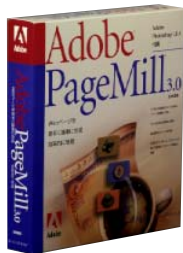




シンプルなインターフェイスとわかりやすい操作性



Adobe PageMill 3.0



「PageMill 3.0」はCSSやDHTML、XMLといった最新ウェブ技術には対応していない。だからといって、これを購入の選択肢から外すのは間違いだ。

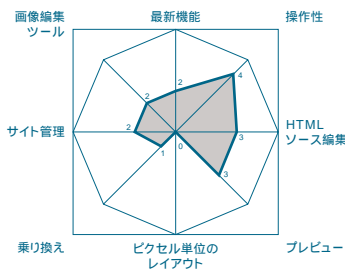
実売 9,600円

いろいろなウェブサイトを見ればわかるように、多くは比較的オーソドックスな技術だけで作られている。裏を返せば、PageMill 3.0があれば、ほかのサイトに引けを取らないホームページを作れるということでもある。

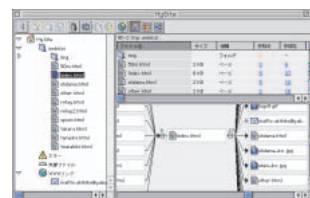
PageMillの特徴は、シンプルなインターフェイスにある。そのぶん、操作も直感でできる。その名称が示すように、前バージョンまでのPageMillはページ編集専用のソフトだった。

が、バージョン3.0には以前は別ソフトとして提供されていた「SiteMill」の機能が加わり、サーバーへのファイルアップロードや、サイト内にあるファイルのリンクチェックもできるようになった。PageMill 3.0があれば、ページ作成からサイト管理まで必要な作業はすべて処理できる。

また、「Photoshop LE-J」がバンドルされているので、画像編集もOKだ。



サイトを管理する「サイトウインドウ」。ウインドウ左にはサイト内のファイルやフォルダが階層表示され、右下に各ファイルのリンクの様子が表示される。



マウス操作で手早くウェブサイトを構築



Namo Webエディター 3.0



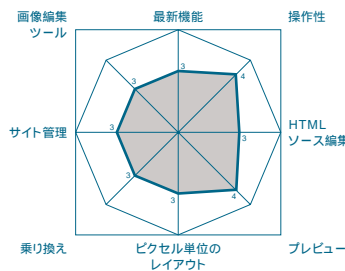
「Namo Webエディター」を使えば、ウェブサイトを手早く組み立てられる。大半の作業はマウスでOK。表やフレームの操作も簡単だ。ロールオーバーボタンやアニメーションなど、JavaScriptやDHTMLを利用した11種類のスクリプトも、ウィザードで手軽に設定できる。その一方で、スクリプト入力用ダイアログや、作業を自動化するためのマクロ機能といった、パワーユーザー向けの機能も備えている。

実売 7,400円

サイト全体に統一した外観を持たせるために用意されているのが、「テーマ」だ。本体に71種類のテーマが内蔵されているほか、ウェブ

サイトから新しいテーマをダウンロードすることもできる。また、テンプレートウィザードを使えば、テーマを決めるだけで、複数のページで構成されるウェブサイトの土台が、一瞬にしてできあがる。

また、バナーやボタン、ページ背景に使う画像が2800種類以上用意され、アニメーションGIFを作るための「Namo GIFアニメーター」も付属している。



メーカー : 江守商事 備
標準価格 : 9,800円(パッケージ版)
6,500円(シェアウェア版)
問い合わせ : 0776-36-6453
www.namo.co.jp



サイトのテーマは編集途中でも変更でき、ページに使われているボタンだけを別のものに変えることもできる。





Officeシリーズとの共通インターフェイスで編集効率アップ

Microsoft FrontPage 2000



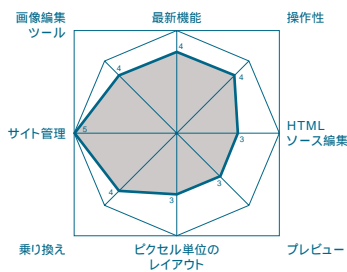
実売 18,000円

「FrontPage」は前バージョンまで、ページ編集をする「FrontPage Editor」と、サイト管理をする「FrontPage Explorer」の2つのソフトに分かれていた。最新バージョンのFrontPage 2000はこの2つが統合され、ページ編集からサイト管理までの作業をシームレスに処理できるようになった。

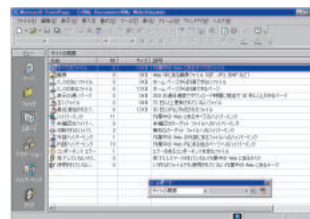
コンポーネントを挿入するだけで、フィールドバックフォームや検索フォーム付きのインタラクティブなページを作ることができ、ウィザードで電子会議室を作れるのもFrontPageの特徴だ。ただし、こうしたページは、プロバイダ側のウェブサーバーに「FrontPage Server Extensions」がインストールされていないと動

作しない。どのプロバイダーにもこれがインストールされているとは限らないので、注意しよう。なお、各プロバイダーの対応状況はFrontPageのウェブサイトに掲載されている。

FrontPage 2000は単体のほか、画像編集ソフト「PhotoDraw 2000 V2」と一緒にパッケージした「Internet Package 2000」(優待パッケージ販売で推定小売価格は12,800円)も発売されている。



FrontPage2000に新しく加わった「レポートビュー」には、サイト内のファイルやリンクの状態がリスト表示される。



ドローツール感覚でウェブサイトを構築

NetObjects FUSION 3.0 日本語版



実売 32,000円

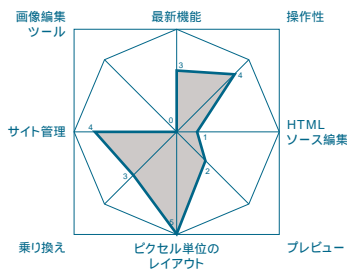
「NetObjects FUSION」のページ編集手順は独特だ。多くのホームページ作成ソフトがワープロ感覚で編集できるのに対して、NetObjects FUSIONはドローツールやDTPソフトのような手法で作成する。

つまり、まず編集領域にテキストや画像などのオブジェクトを入れるボックスを配置し、その中に目的のオブジェクトを入れるのだ。編集領域にはグリッドが表示されるので、ピクセル単位で位置の調整ができる。

ファイルを保存する形式も独特だ。HTMLファイルではなく、NetObjects FUSION独自のnodファイルとして保存される。完成したサイトをウェブサーバーにアップロードするとき

に、nodファイルからHTMLが自動的に生成される仕組みだ。

おもしろいのは、このとき、バージョン2.0以降のネットスケープナビゲーター(NN)とインターネットエクスプローラ(IE)で表示できる「標準形式」とバージョン4.0以降のNNとIEでないと表示できない「DHTML」、レイアウトの再現性は乏しいが多くのブラウザで表示できる「簡易形式」の3種類の中からHTMLの形式を選べることだ。



メーカー : 三菱商事株
標準価格 : オープンプライス
問い合わせ : 03-5479-5283
www.b-factory.com/jp/NetObjects/

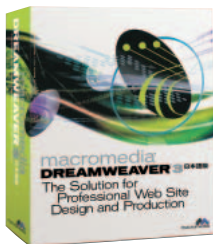


「サイトビュー」は、サイト内のページを階層構造で表示。ページアイコンをダブルクリックすると、「ページビュー」にそのページが表示される。



ビジュアル編集とHTMLソース編集を駆使してページ作成

Macromedia Dreamweaver 3 日本語版



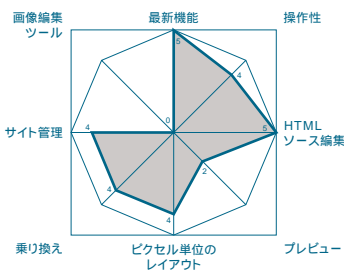
2000年1月14日
発売予定

ビジュアルモードでページを作成したあと、HTMLソースコードを直接編集して細部を調整。この一連の作業をスムーズに行えるのが「Dreamweaver」を使う大きなメリットだ。バージョン3では、ソースコードに行番号を付けられるようになり、ビジュアルモードで編集個所のHTMLソースを直接編集できる「Quick Tag Editor」機能も加わった。

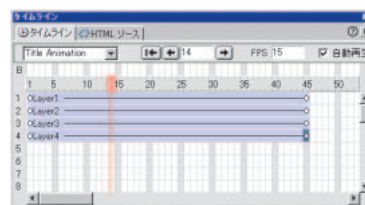
バージョン3の新機能の中で、特筆すべきは「履歴パレット」だ。このパレットにはそれまで行った作業がステップごとに表示され、マウス操作で以前のステップまで戻ったり、

特定の作業を繰り返したりできる。パレットの内容はJavaScriptコマンドとして保存でき、マクロとして繰り返し利用することもできる。作業効率をアップしてくれるうれしい機能だ。

あえてDreamweaver3の欠点を挙げるとすれば、画像編集機能がないことだろう。同時発売の「Fireworks 3.0」はこの欠点を補い、Dreamweaver3のホームページ作成環境をより強力なものにしてくれる。



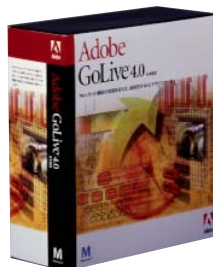
メーカー : マクロメディア㈱
標準価格 : 39,800円
問い合わせ : 03-5351-8652(アスキー)
092-752-5264(システムソフト)
03-5676-2177(ソフトウェア・トゥー)
www.macromedia.com/jp/



アニメーションを作る「タイムラインエディター」では、直線的な動きだけでなく、曲線的な動きも作れる。

マルチメディアコンテンツを多用したページ作成に最適

Adobe GoLive 4.0 日本語版



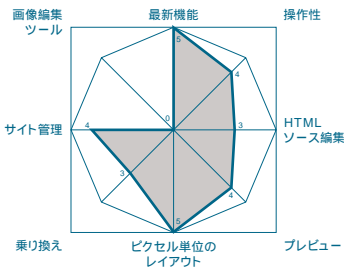
実売 45,000円

マウスの操作できめ細かなページをデザインができるのが「GoLive」の特徴だ。テーブルタグを利用したピクセル単位のレイアウトが基本だがこの場合、HTMLコードが非常に長く複雑になる。それを避けたいときは、DHTMLの設定に使う「フローティングボックス」を利用するといひ。テキストや画像といったページ構成要素の配置を、ピクセル単位で細かく設定できるようになる。

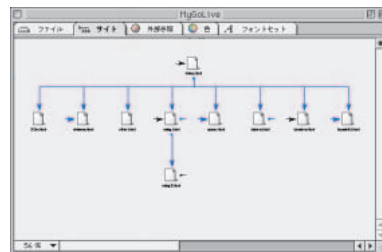
DHTMLやJavaScript、Java アプレット、プラグインなどを多用したダイナミックでインタラクティブなページを作りやすいのが、GoLiveのもう一つの特徴だ。GoLiveフォルダー内にあ

るPlug-insフォルダーに利用したいプラグインをコピーしておけば、GoLiveでプレビューもできる。最新バージョン4.0には、QuickTimeムービーの編集機能まで搭載されている。

発売元のアドビシステムズからは、「ImageReady」や「ImageStyler」といったウェブ画像編集ソフトが発売されている。GoLive自身は画像編集機能を持っていないため、パナーやボタンなどの作成や画像最適化はこうしたソフトが別に必要だ。



メーカー : アドビシステムズ㈱
標準価格 : オープンプライス
問い合わせ : 03-5350-0407
www.adobe.co.jp/products/golive/main.html



「サイトウィンドウ」の「サイト」タブ画面には、サイトを構成する各ページの関係がグラフィカルに表示される。



ホームページ作成ソフト主要機能一覧表

		ホームページビルダー2001	i.ホタルパーソナル	Adobe PageMill 3.0	Nome Web エディター-3.0	Microsoft FrontPage 2000	
メーカー		日本アイ・ビー・エム ㈱	デービーソフト ㈱	アドビシステムズ ㈱	江守商事 ㈱	マイクロソフト ㈱	
標準価格		14,800円	9,800円	12,800円	9,800円(パッケージ版) 6,500円(シェアウェア版)	オープンプライス	
実勢価格		11,000円	7,500円	9,600円	7,400円	18,000円	
Windows	対応OS	Win95/98/NT4.0	Win95/98/NT4.0	Win95/NT4.0	Win95/98/NT4.0以降	Win95/Win98/ NT4.0 SP3以降*7	
	CPU	Pentium 以上	-	Intel 486またはPentium 以上	Pentium 以上を推奨	Pentium75MHz以上	
	メモリー	32MB以上 (64MB以上推奨)	16MB以上 (32MB以上推奨)	16MB以上	32MB以上	8MB以上 (OS用に別途必要)*8	
	ハードディスク	最小構成で50MB以上	約100MB	20MB以上	3MB以上	167MB以上	
Macintosh	対応OS	-	-	Apple 漢字Talk 7.5.5以降	-	-	
	CPU	-	-	PowerPC プロセッサ	-	-	
	メモリー	-	-	8MB以上	-	-	
	ハードディスク	-	-	20MB以上	-	-	
ページ編集	対応	HTMLのバージョン	HTML4.0	HTML4.0	HTML3.2	HTML4.0	
		CSS			x		
	DHTML			x			
	XML	x	x	x	x	x	
	モバイル(iモード、WAP、PDAディスプレイなど)	(iモード、1/4VGA、MobileWeb など)	(iモード)	x	x	x	
	ダイナミックコンテンツ(Java)						
	# (プラグイン)						
	# (ActiveX)		x	(Win版)			
	# (JavaScript)						
	# (VisualBasic)	x	x	x			
	イメージマップ(サーバーサイド)		x				
	# (クライアントサイド)				x		
	プレビュー	本体	(要IE)		(Win版*5)		
		ブラウザ(IE)					
	# (NN)						
HTMLソース編集							
HTML構文チェック/ソース自動修正			x	x	x	x	
ほかのツールで作成したページの編集							
ピクセル単位のレイアウト(テーブル利用)		x	x	x	x	x	
# (CSS利用)				x			
サイト管理	転送時間表示	*1	*2	(ダウンロード時間のみのみ)			
	更新分のみアップロード	*1	*2				
	リンク状況の視覚的管理	*1	*2				
	リンクチェック	*1	*2				
	リンクの自動更新・修復	*1	*2		x		
	ファイル管理	*1	*2				
	掲示板の書き込みなどのダウンロード	*1	*2		x		
画像編集	画像編集ツール名(バンドル)	ウェブアートデザイナー ウェブアニメーター	ロゴファクトリー アニメーションファクトリー	Adobe Photoshop LE-J	Nome GIF アニメーター	ImageComposer 1.5 PhotoDraw 2000 V2*9	
	対応画像形式	GIF、JPEG、PNG、BMP、 WMF、TIFF、FlashPix、 PhotoCD、DCM、MIF	GIF、JPEG、BMP	GIF、JPEG、 PICT(MacOS)、 BMP(Win)	GIF、JPEG	GIF、JPEG、BMP、TIFF、 TGA、RAS、EPS、PCX、 PNG、PhotoCD、WMF	
	画像最適化		(iモード用にのみ)	*6	x		
	ロゴ作成・加工	(本体、ウェブアートデザイナー)	(ロゴファクトリー)	(Photoshop LE-J)	x	(Image Composer、 PhotoDraw 2000 V2)*9	
	ボタン作成・加工	(本体、ウェブアートデザイナー)	x	(Photoshop LE-J)	x		
	ロールオーバーボタン作成	(本体、ウェブアートデザイナー)	*3	x			
アニメーションGIF作成	(ウェブアニメーター)	(アニメーションファクトリー)	x	(Nome GIF アニメーター)	(ImageComposer、PhotoDraw 2000)		
収録素材	ページテンプレートの数	約150点	60点+iモード用10点*4	GIF、アニメーションGIF、 Java アプレット、Java Script、テンプレート などの素材をすべて合わせて 1万点以上	81 テーマ、6 テンプレート	60点以上	
	添付画像数	約3600点	5000点		2800点以上	PhotoDraw 2000 に 多数収録*9	
	その他の素材数	サウンド(20)、スタイルシー K 50) Java アプレット(18) JavaScript(3)	DHTML 簡易設定(9)		-		
その他の機能	アクセシビリティ・チェック 音声読み上げページ作成機能	3D サインボード メロディーファクトリー 録音機能 イメージパレット	-	数式エディター スクリプトウィザード テーマやテンプレートをウェブ サイトからダウンロード可	Visual SourceSafe と統合 されたバージョン管理機能 Script Editor データベース発行機能		

*1 付属のFTPツールを利用

*2 付属のハイパーテキストマネージャを利用

*3 簡易DHTMLの「ダイナミックイメージ」相当

*4 付属のホームページギャラリーを利用

*5 Win版では、インターネットエクスプローラがインストールされている場合に、本体内でインターネットエクスプローラを使ったプレビューも可

*6 Photoshopから直接画像をドラッグアンドドロップしたり、BMPやPICTをドロップしたりすると、自動的にGIFに変換

*7 ウィンドウズ95とウィンドウズNT4.0 SP3以上の場合、インターネットエクスプローラ4.01 SP1以上が必要

*8 ウィンドウズ95/98以上の場合、OS用に16MB以上必要で、ウィンドウズNT4.0 SP3以上の場合、OS用に32MB以上必要

*9 PhotoDrawはInternet Package 2000に付属

Product Showcase



NetObjects FUSION 3.0 日本語版	Macromedia Dreamweaver 3 日本語版	Adobe GoLive 4.0 日本語版	メーカー 標準価格
三菱商事㈱	マクロメディア㈱	アドビシステムズ㈱	
オープンブライズ	39,800円 (2000年1月14日発売予定)	オープンブライズ	
32,000円	-	45,000円	実勢価格
Win95/98/NT4.0以降	Win95/98/NT4.0以降	Win98/NT4.0 SP3以降	対応OS Windows
Pentium90MHz以上 32MB以上	Pentium120MHz以上 32MB以上	Pentium200MHz以上*11 32MB以上 (Win98) 64MB以上 (WinNT4.0以降)	CPU メモリー
20MB以上	20MB以上	50MB以上	ハードディスク
-	Mac OS8.1以降	Mac OS8以降	対応OS Macintosh
-	Power Macintosh(G3、G4推奨)	Power Macintosh	CPU
-	32MB以上	24MB以上(32MB以上推奨)	メモリー
-	20MB以上	30MB以上(45MB以上推奨)	ハードディスク
HTML3.2/4.0	HTML4.0	HTML4.0	HTMLのバージョン CSS DHTML XML
x			モバイル(モード、WAP、PDAディスプレイなど) ダイナミックコンテンツ(Java) # (プラグイン) # (ActiveX) # (JavaScript) # (VisualBasic)
x	x	x	イマーシブ(サーバーサイド) # (クライアントサイド)
x	x		本体 プレビュー
x	x		ブラウザー(IE) # (NN)
*10 *10 (登録した外部ツールで編集)	(環境設定で登録) (環境設定で登録)	(環境設定で登録) (環境設定で登録)	HTMLソース編集 HTML構文チェック/ソース自動修正 ほかのツールで作成したページの編集 ピクセル単位のレイアウト(テーブル利用) # (CSS利用)
x			転送時間表示 更新のみアップロード リンク状況の視覚的管理 リンクチェック リンクの自動更新・修復 ファイル管理
x		x	掲示版の書き込みなどのダウンロード 画像編集ツール名(バンドル)
-	-	-	対応画像形式
GIF、JPEG、PNG、BMP、PCX、PICT、FPX	GIF、JPEG、PNG	GIF、JPEG、PNG、BMP(Win)、PICT(Mac)、TIFF(Mac)	画像最適化 ロゴ作成・加工 ボタン作成・加工 ロールオーバーボタン作成 アニメーションGIF作成
x	(Fireworks)	*12	ページテンプレートの数
x	(環境設定で外部ツールを登録)	x	添付画像数
x	(環境設定で外部ツールを登録)	x	その他の機能
-	-	-	
-	-	-	
コンポーネント(9)	SSI	-	
ウェブサイトからコンポーネントをダウンロード可	ヒストリー機能 Fireworksとの連携	QuickTimeムービー編集機能	

*10 環境設定でネットスケープナビゲーターまたはインターネットエクスプローラを登録

*11 または100%互換のプロセッサを搭載したNEC PC98-NXシリーズまたはDOS/Vコンピューター (NEC PC-9800シリーズ対象外)

*12 Photoshop から直接画像をドラッグアンドドロップしたり、BMPやPICTをドロップしたりすると、自動的にGIFまたはJPEGに変換
製品の乗り換えやバージョンアップによる優待価格は別

素材集を利用しよう

フリー画像が手に入るウェブサイト

ホームページ作成ソフトには、画像などの素材が付いているものも多い。それだけで物足りないと思ったら自分で作るのもいいが、素材データが収録されたCD-ROM付きの書籍を利用するのも1つの方法だ。

たとえばインプレスでは、プライベートページ向けの「HOT&プライベート編」、ビジネス向けの「COOL&ビジネス編」など、目的・用途別にシリーズ化された「ホームページ素材集」を発売している [Jump01](#)。

画像素材を手に入れる方法はまだある。インターネットを利用するのだ。数多くのウェブサイトで、アイコンやアニメーションGIF、背景画像が無料で提供されている。

たとえば、プロのデザイナー森川眞行氏のウェブサイト「Silicon Cafe」の「G-TOOL」 [Jump02](#) では、氏が作った3万点の画像が公開されている。また、「Art & Technology for Networking」 [Jump03](#) では、約1500点の画像に加え、JavaアプレットやJavaScriptも公開されている。変わったところでは、北海道大学コンピュータセンターの「Signboard Factory」 [Jump04](#) もおもしろい。ここでは、指定したテキストから3Dのロゴをオンラインで作ることができるのだ。

インプレスの素材集(インプレス販売) [Jump01](#) www.ips.co.jp

G-TOOL [Jump02](#) www.siliconcafe.com/gtool/

Art & Technology for Networking [Jump03](#) home.att.ne.jp/gold/naoki/indexjp.html

Signboard Factory [Jump04](#) nis-ei.eng.hokudai.ac.jp/~yamamoto/factory/indexj.html



G-TOOLのトップ画面。約3万点の画像が公開されている。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp